

技術情報 vol.3

秋まき小麦

発行年月日 2023.05.15
JA 新はこだて厚沢部営農センター
檜山農業改良普及センター
檜山郡江差町字柳崎町 55 番
TEL 0139-53-6141
FAX 0139-53-6143

止葉期の管理について

「きたほなみ」の生育は平年より3日程度早く、止葉期は平均で5月17日頃になる見込みです。

■ 追肥

止葉期の追肥は、子実の充実とタンパクの向上につながります。ほ場の茎数・葉色等を確認し、適期に追肥して下さい。

<きたほなみの窒素施肥標準>

窒素量	施肥例
4kg/10a	硫安20kg/10a



～止葉期とは～
全茎の40～50%の
止葉が展開した日

※幼穂形成期の追肥を遅らせたほ場では、出穂期(平年値 5/28)までに実施する。

※肥効調節型肥料による追肥の場合も茎数・葉色等を確認し、追肥を検討する。

■ 茎稈伸長抑制、倒伏軽減

茎数が多く(止葉期で900本/m²以上)、葉色が濃い等により倒伏する恐れのあるほ場では、植物成長調整剤を使用しましょう。

※30%以上の出穂をみてからでは倒伏軽減効果が劣る場合があるので、適期に処理する。

※展着剤は加用しない。薬剤との混用及び同日散布は避ける。

※植調剤は JA で事前注文となり、返品できませんので注意して下さい。

■ 病害防除

赤さび病は、気温が高く雨の少ない条件で多発し、近年は同病害の発生が目立っています。止葉期防除を行いましょう。